

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300436		
法人名	社会福祉法人 健祥会		
事業所名	グループホーム 笑顔毎日		
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町中庄大知淵10番地		
自己評価作成日	平成28年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人のためのケアマネジメント・センター方式を活用し、利用者個々のライフスタイルを全職員で共有し利用者、家族のニーズに応じたケアプランを作成している。ゆとりあるケアの実践に努め、生活の中では、利用者が生活の主体であることを大切にし、利用者職員とはともに悩んだり、助け合ったり、喜べる関係作りに取り組んでいる。また利用者がいろいろなことが体験できるように地域の方の協力を得ながら、施設周辺の散歩や食材の買い出し、喫茶店など「日常的な外出支援」を推進し新しい事にチャレンジできるように支援している。 *職員は交代で法人内外の研修に出る機会を設け個々のケアの質向上に努めている。 *事業所周辺にはケアハウスや小規模多機能居宅介護事業所があり、一緒にイベントをしたり、利用者の生活が広がるように協働している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園風景の広がる静かな地域に位置している。運営推進会議や地域活動への参加等を通じて、地域住民と良好な関係を築くよう努めており、避難訓練や同一法人の運営する併設の他サービス事業所との合同行事等に多くの地域住民の参加を得ている。事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念や、職員間で話し合っ作成した介護理念を掲げている。職員は、利用者一人ひとりに寄りそい、自立支援に向けた生活全般にわたる心身の総合的なケアを実践している。日頃から管理者と職員間で意思疎通を図り、事業所全体で一体感をもって支援に取り組んでいる。利用者個別の外出支援にも力を入れており、日常的な外出や行事に加えて、馴染みの場所への外出支援にも積極的に取り組むなど、利用者の生活が豊かなものとなるよう配慮している。職員は気づきのレベルを高めることを意識し、利用者のサインを見逃すことのないよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切に、利用者と家族との絆や健やかな生活を支援することを介護方針とし、毎日の朝礼で職員全員で理念の唱和を行い実践に向け取り組んでいる。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念に加え、職員間で話し合って介護理念を作成している。職員は、朝礼時での理念の唱和やミーティング時の話し合いを重ねており、理念にそって支援することができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市や商工会議所主催の海岸の清掃やゴミゼロ夏祭り活動等に参加。当施設納涼祭や敬老会(3施設合同)では地域住民の参加を募り交流している。近所を散歩したり、散髪やスーパーに買い物等出かけている。	事業所では地域の民生委員等の協力を得て、地域での活動や行事などへ積極的に参画している。日頃の散歩や買い物、または同一法人の運営する併設の他サービス事業所との合同行事を通じて、利用者と地域住民との交流を深めている。地域の学校や警察、郵便局等との関係づくりも進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を深めて頂くため、事業所のキャラバンメイトが「認知症サポーター養成講座」を行ったり、「羽ノ浦教室」で研修会を実施することもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域住民代表、市職員、包括支援センター職員、有識者、管理者等で構成され、事業所の現状や利用者支援について報告している。会議で出された意見は現場のケアに活かしている。	2か月に1回運営推進会議を開催している。会議では、事業に関する報告や情報交換を行っている。事業所の考え方として地域との繋がりを大切にしており、出席者も増えてきている。出席した委員からは、積極的に意見を出してもらっており、活発な意見交換の機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村管轄の事業所として、情報共有に努めている。又、運営推進会議委員でもあり、年6回の参加の際は、事業所の実情を把握して頂けるものと思われる。	事業所では運営推進会議のみならず、様々な機会を捉えて市役所と連絡を取りあっている。市担当者への相談から助言を得ることもあり、課題解決に繋がっている。協働的な関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内や事業所内研修会では、身体拘束についての理解を学び、日々利用者の状態について朝礼やミーティングで話し合い拘束が無くて当たり前のケアに取り組んでいる。玄関は常に開放している。	事業所では、毎日の朝礼や研修、ミーティングなどの機会を通じて、全職員が身体拘束の弊害を正しく理解することができるよう努めている。利用者の様々なサインに気づき、安全面にも配慮しつつ、利用者の気持ちにそって、行動を制限することなく支援している。また、来訪者もまた気持ちよく来ることができるよう、施錠はしないという方針を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会や毎月行われる認知症ケアの勉強会を実施し理解を深めるようにしている。言葉や態度で利用者を傷つけることにならないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、制度の理解を周知している。現在、権利擁護を利用している方はいないが、後見人を立てている家族がおられ、必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明等内容を解りやすく説明し、納得と同意を得て利用して頂くよう努めている。利用料の変更時も同様に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や第三者委員を設け苦情・相談を受付けている。又、日頃から利用者や家族からの意見・要望がないかを把握し、内容によっては説明や改善を行い、サービスの質・向上に繋げている。	家族の来訪時や家族会の機会を活用し、意見等を聞くように努めている。また、広報誌“笑顔毎日だより”を発行するなどの工夫も行っている。利用者に関する情報は、本人や家族、職員間で共有するなどして、より良いサービスに結びつけるようにしている。利用者や家族から出された意見や要望は、全職員で話し合っ実践に反映しており、対応等の結果もフィードバックしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りや各ユニットのミーティング、ユニット会議等を行い、全体での話し合いを大切に、ケアの質向上に活かしている。日々のコミュニケーションの中でも提案しやすいような環境づくりに努めている。	管理者は、申し送りやミーティング以外にも、様々な機会を捉えて職員とコミュニケーションをとるなどして、意見や提案を聞くようにしている。代表者に職員の意見が届く仕組みも構築している。職員が一体感を持ち、いきいきと働き続けることができるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働に見合った給与算定とし、職員個々の勤務時間帯を考慮した職の提供をしている。資格取得に向けての支援や研修参加の機会を設け、知識や向上できる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に応じた職務分掌を作成している。事業所外研修等で他事業所との交流が図れるようにしている。また、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得にも積極的に取り組み、職員の質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や法人内部会の研修会に参加し意見交換や情報共有しながら質の向上に繋げている。又認知症介護実践研修の実習生を受け入れ、当施設からも参加する等交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談を受けると、利用者と面談し、利用者の気持ちに傾聴する。事業所の雰囲気把握して頂けるように見学もすすめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	紹介先の関係者からの情報も大切に活用しながら家族と話し合い、日頃不安に思っていることや求めていることを把握している。適時必要な説明や助言をふまえ事業所の理解や信頼関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族のお話のなかや主治医とも相談して、現状に適したサービス提供が可能な事業所などの紹介や事業所の特質なども説明し、選択肢を持って考えられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者から人生の先輩として教わることも多く、家族のような生活スタイルで接するように努めている。調理法や味付けの仕方を教わったり洗濯ものをたたんでいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活の様子を面会時や「笑顔毎日だより」等で報告し、家族との絆を深めて頂いている。お誕生会や外出等は積極的に参加を依頼し、不安を感じている時は家族にも協力して頂き利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を大切にしながら利用者と職員で馴染みのあるスーパーマーケットへ買い物や喫茶店等出かけている。	事業所では、利用者一人ひとりの馴染みの人や場所との繋がりや生活習慣の継続を尊重している。日頃の利用者や家族との関わりから情報を得ており、馴染みの美容院の利用や地域行事への参加、手紙のやりとりについても支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、リビングで一緒に洗濯ものをたたんだり塗り絵や歌をうたったりして楽しく過ごしている。輪に入らなくても利用者同士の関係がうまくいくようにスタッフ間で調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にはお見舞いに行っている。事業所との契約終了後も本人の様子や家族の相談に応えたり、事業所だより等を送付し、他事業所へ転移された際は、情報を提供し同ケアが可能となるよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との生活の関わりの中で会話や表情等から、意向や希望を把握するよう努めている。困難な場合は本人本位の視点で検討するよう努めている。	事業所では、“私の気持ちシート”を活用するなどして、居室担当の職員が中心となって利用者の思いや意向を把握している。また、本人の思いや意向に変化が見受けられた際にも、適切に対応することができるよう配慮している。職員は、利用者の入居前から家族への聞き取りを重ねており、より良い支援に繋がるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用者と面談できる限り情報収集に努め、家族からの情報提供を得て馴染みの暮らしができるよう支援している。また生活の中で利用者とコミュニケーションを図りながら生活歴を聞きケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活スタイル(リズム)を把握し個別ケアの実践に取り組んでいる。又、自立支援を目指し、個々のできることや分かる力を最大限活かせることができる援助を生活に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を大切に、医師等関係者の意見も介護計画に反映している。日々の生活の中での気づきを職員間で検討し、モニタリングを繰り返し利用者の心身の状態に応じて介護計画を見直している。	事業所では、計画作成担当者や居室担当職員が中心となり、全職員で協働して本人や家族、関係者の意見を確認し介護計画書を作成している。介護計画で定めた期間内であっても、利用者の心身状態の変化や、利用者や家族の要望を踏まえて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動記録は介護計画にそって記録している。ソフトを導入しテーマ毎に記録を検索できチーム間の情報共有に役立っている。個人ファイルには医療や基本情報等を整理しモニタリングに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ユニット毎に3か月に1回定期的に協力医の往診を受けている。他通院が必要な方は希望の病院へ受診している。家族ができない場合には送迎、付き添いの支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問や近隣のお店への買い物。また個別誕生会での生まれ育った土地(小学校や道の駅)へ出かけ地域住民の方と交流が図れるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医に引き続き受診している。日常生活での小さな異変に対し介護職員・看護職員又、利用者個々の主治医・家族と相談し早期発見・早期治療に心がけている。	利用者や家族の意向を尊重し、入居前のかかりつけ医の受診を支援している。家族とかかりつけ医、事業所間で連携を図り、早期発見と早期治療に努めている。往診に加え、必要な専門医の受診も支援している。利用者や家族が安心して生活することができるよう、迅速で丁寧な医療面の支援にも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々のケアの中での体調変化をその都度、看護職員に伝え双方が連携して、医療と連携を図り、早期発見・早期治療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、利用者の情報を医療機関に提供し、医療機関の地域連携室のソーシャルワーカーと連携し退院計画も含め情報共有をしている。入院中は職員が訪問し、利用者とのよい関係が維持できるようにしている。家族とも情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末ケアの意向を伺い事業所としてできることを説明している。日ごろから状態の変化を素早くキャッチし医療との連携によって早く対処できるようにしている。家族の安心感につながっている。	契約時の段階で、重度化した場合や終末期に関する事業所の方針等を本人や家族に説明し、理解を得ている。また、利用者の心身状況の変化に応じて、そのつど家族に方針を確認している。医療機関と連携し、なるべく長く事業所で生活することができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し周知している。高齢者介護の一環として救急法や緊急時対応の知識・技術の向上の為の研修を実施し実例(新聞記事など)を参考に職員でリスクマネジメントを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民や運営推進会議委員・消防団・消防署員などの協力を得て事業所内で年2回の防災訓練を実施し、地域防災訓練に積極的参加している。ケアハウスに非常食を備蓄し避難場所にもなっている。	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練等を実施している。通報や消火を含めた実践的な訓練内容となっており、地域住民や運営推進会議の委員、消防団等の協力も得ている。同一法人の運営する併設の他サービス事業所とも連携し、避難ルートや連絡網、初動体制、備蓄品も整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内や事業所内の勉強会で尊厳について学んだりサービスの質を考える機会を定期的に開いている。不適切ケアに気づき利用者の気持ちに寄り添ったケアができるよう取り組んでいる。	事業所では、利用者の人格の尊重やプライバシー保護に関する勉強会の機会を計画し、実施を重ねている。日頃から、職員は利用者への声かけなど、日常生活の関わりの場面で、一人ひとりのプライバシーを適切に保護するよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お楽しみ献立や日々の過ごし方等自己決定ができるよう支援している。誕生日のプレゼントも利用者の欲しい物を用意している。言葉で十分に意思表示が出来ない方には表情や行動等から判断するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の意向やペースを大切に生活が送れるよう支援している。業務をこなすのではなく、起床、食事、就寝時間など柔軟に対応している。お化粧や着付け教室ではフェースマッサージや浴衣を着たり喜ばれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替えや入浴時、外出時には意思決定の場として利用者の好みの洋服を選択してもらっている。中には外出時は自分でスーツを着て家族を待っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きや配膳・下膳など、できるところでお手伝いしていただき、役割を持って楽しく食事の準備ができるよう援助している。	事業所では、食事の準備等の際に本人のできることややりたいことに着目した支援を行っている。週1回、利用者の希望を取り入れた“お楽しみ献立”を実施している。行事食や季節感のある献立も提供している。利用者と職員は、ともに家庭的な雰囲気の中で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスのとれた食事を提供している。食事や水分摂取量を記録し、一人ひとりの状況に合わせて食事の形態や食器を工夫している。また、定期的に体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを重視し、日々の口腔内清潔に努めている。感染症予防を含み安全に美味しく食事をして頂く為に食前の嚥下体操に取り組んだり、マッサージや保湿剤を使用し乾燥予防に努めている。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス)	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。また利用者がソワソワしたり困っているような様子に気づき、思いを汲み取るようにしている。	職員は、利用者の排泄チェック表に基づき、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。本人がトイレで排泄することができるよう、表情の変化や仕草等から排泄のサインを読み取り、さりげない誘導を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材の使用や運動を心掛け、水分補給は個々の体重に伴った摂取量をすすめている。起床時の牛乳やコップ1杯の水(白湯)の飲用を支援し自然排便に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴スタイルを重視し、毎日入りたい方には意向に沿うよう心がけている。また同姓介護を行いゆったりと入浴できるようにしている。排泄などで汚れた場合はすぐに清潔にできるように努めている。	事業所では、入浴回数や時間、同性介護等、可能な限り利用者の希望に合わせた支援に努めている。入浴が楽しいものとなるよう、会話を工夫したり、歌を取り入れたりするなどの配慮も見受けられる。入浴を拒む方には、時間帯や職員を変えて誘導するようにしている。心身状況に応じて2人介助や部分浴、清拭も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、休みたい時には自分で好きな時に自室に戻り休息できるようにしている。また、夜間良眠できるように日中活動ができるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースで管理している。個人ファイルには処方箋を入れ管理し種類・量・副作用についても把握するよう努めている。職員間で申し送りをし、症状の変化があれば、医師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や編み物など、一人ひとりが得意としている事が出来るように場面を設けている。職員は感謝の気持ちを言葉で伝え、役割が周りの方にも役立つことを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の意向に合わせて、ベンチで日向ぼっこをしたり、敷地内にある自動販売機にジュースを買いに行ったり、散歩やスーパーに買い物に行くなどの支援をしている。家族と共に外食や外泊することもある。	事業所では、利用者一人ひとりの意向に沿った個別の外出支援を大切なことと捉えている。本人の些細な思いを見逃すことのないよう、日頃から関わっている。散歩や買い物、外気浴等の日常的な外出に積極的に取り組むとともに、年間行事としての外出や外食についても支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(コスモス) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解のもと、お小遣い程度のお金を持っている方もおられる。立替金で各自好きな物を購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話したり、手紙を出せるように支援している。難聴の方には職員が支援したり、届いた手紙が読みにくい方には利用者の了承のもと代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境作りにつとめ、料理のにおいや正月や敬老の日には床の間を作り、鏡餅や生け花等で昔からの行事や季節感を感じてもらっている。壁面にも季節感ができるように心掛け空調や日差しの調整にも気をつけている。	食堂やホールは、日当たりの良い明るい空間となっている。季節の飾り付けなどを行う際には、家庭的な雰囲気や清潔感などに留意しつつ、過度な装飾とならないよう気配りをしている。温度調節や清掃も行き届いており、居心地良く過ごすことができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、気の合う入同士が会話を楽しんだり、ゆっくりくつろいで過ごせるよう畳も用意されている。一人になりたい場合は談話コーナーで静かに過ごすこともできマッサージ機もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた小物や家具を持参していただき、その人らしい居室環境作りを支援している。また、家族が利用者や家族の好みの写真を飾ってくれている。仏壇を持参している方もいる。	事業所では、利用者のお気に入りの小物や家具を居室に持ち込んでもらっており、その人らしい空間となるよう支援している。また、居室内の家具等の配置は、利用者の目線に合わせるなどの配慮を行っている。安全性にも配慮しつつ、家具の配置を行っている。また、荷物が少ない方には、入居後の生活において馴染みの物が増えるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーと手摺等で転倒のリスクを軽減している。浴室やトイレ又必要時居室には活字や図等を付けて分かりやすくしている。危険物の管理を徹底しキャストを取り除くなど安全に生活が送れるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			(すいせん) 実践状況	(ひまわり) 実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切に、利用者と家族との絆や健やかな生活を支援することを介護方針とし、毎日の朝礼で職員全員で理念の唱和を行い実践に向け取り組んでいる。	地域との交流を大切に、利用者と家族との絆や健やかな生活を支援することを介護方針とし、毎日の朝礼で職員全員で理念の唱和を行い実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	市や商工会議所主催の海岸の清掃やゴミゼロ夏祭り活動等に参加。当施設納涼祭や敬老会(3施設合同)では地域住民の参加を募り交流している。近所を散歩したり、散髪やスーパーに買い物等出かけている。	市や商工会議所主催の海岸の清掃やゴミゼロ夏祭り活動等に参加。当施設納涼祭や敬老会(3施設合同)では地域住民の参加を募り交流している。近所を散歩したり、散髪やスーパーに買い物等出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を深めて頂くため、事業所のキャラバンメイトが「認知症サポーター養成講座」を行ったり、「羽ノ浦教室」で研修会を実施することもある。	認知症の人の理解や支援の方法を深めて頂くため、事業所のキャラバンメイトが「認知症サポーター養成講座」を行ったり、「羽ノ浦教室」で研修会を実施することもある。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域住民代表、市職員、包括支援センター職員、有識者、管理者等で構成され、事業所の現状や利用者支援について報告している。会議で出された意見は現場のケアに活かしている。	利用者、家族、地域住民代表、市職員、包括支援センター職員、有識者、管理者等で構成され、事業所の現状や利用者支援について報告している。会議で出された意見は現場のケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村管轄の事業所として、情報共有に努めている。又、運営推進会議委員でもあり、年6回の参加の際は、事業所の実情を把握して頂けるものと思われる。	市町村管轄の事業所として、情報共有に努めている。又、運営推進会議委員でもあり、年6回の参加の際は、事業所の実情を把握して頂けるものと思われる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内や事業所内研修会では、身体拘束についての理解を学び、日々利用者の状態について朝礼やミーティングで話し合い拘束が無くて当たり前のケアに取り組んでいる。玄関は常に開放している。	法人内や事業所内研修会では、身体拘束についての理解を学び、日々利用者の状態について朝礼やミーティングで話し合い拘束が無くて当たり前のケアに取り組んでいる。玄関は常に開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会や毎月行われる認知症ケアの勉強会を実施し理解を深めるようにしている。言葉や態度で利用者を傷つけることにならないよう防止に努めている。	虐待防止の研修会や毎月行われる認知症ケアの勉強会を実施し、理解を深めるようにしている。ヒヤリハットや事故報告書を活用することによって回避できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、制度の理解を周知している。現在、権利擁護を利用している方はいないが、各ユニット玄関にいつでも閲覧出来るよう資料を設置し、希望に応じ説明し支援している。	研修を実施し、制度の理解を周知している。現在、権利擁護を利用している方はいないが、各ユニット玄関にいつでも閲覧出来るよう資料を設置し、希望に応じ説明し支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明等内容を解りやすく説明し、納得と同意を得て利用して頂くよう努めている。利用料の変更時も同様に対応している。	契約時には、重要事項の説明等内容を解りやすく説明し、納得と同意を得て利用して頂くよう努めている。利用料の変更時も同様に対応している。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族からの意見・要望がないかを把握し、内容によっては説明や改善を行い、サービスの質・向上に繋げている。玄関に意見箱を設置している。	意見箱の設置や家族会の場で意見や要望を聞き、運営に反映させサービスの質・向上に努めている。出された意見関しては検討し改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りやミーティング、ユニット会議等を行い、全体での話し合いを大切にケアの質向上に活かしている。「要望・相談ノート」を作成し、自由に記入しチームが向上心を持って働ける環境づくりをしている。	朝・夕の申し送りやミーティング、ユニット会議等を行い、全体での話し合いを大切にケアの質向上に活かしている。「要望・相談ノート」を作成し、自由に記入しチームが向上心を持って働ける環境づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働の差が出ないよう、一人ひとり役割を持ち確実に業務実績が積み上げられるような環境づくりをしている。	個別に話を聞く機会を持って、意見や提案を業務に活かし職場環境に活かせるようにしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上の為、グループ内外の研修に参加する機会を設け、職員の質の向上につなげている。また、事業所内のOJTの実施からも理念にそったケアができるようにしている。	職員個々の能力を見極め、理解した上で、能力が発揮できる研修へ参加する機会を持つようになっている。研修後は内容を発表したり報告書を回覧し、職員間で共有できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や法人内部会の研修会に参加し意見交換や情報共有しながら質の向上に繋げている。又認知症介護実践研修の実習生を受け入れ、当施設からも参加する等交流している。	グループホーム協会や法人内部会の研修会に参加し意見交換や情報共有しながら質の向上に繋げている。又認知症介護実践研修の実習生を受け入れ、当施設からも参加する等交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			(すいせん) 実践状況	(ひまわり) 実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談を受けると、利用者と面談し、利用者の気持ちに傾聴する。事業所の雰囲気把握して頂けるように見学もすすめている。	入所相談を受けると、利用者と面談し、利用者の気持ちに傾聴する。事業所の雰囲気把握して頂けるように見学もすすめている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	紹介先の関係者からの情報も大切に活用しながら家族と話し合い、日頃不安に思っていることや求めていることを把握している。適時必要な説明や助言をふまえ事業所の理解や信頼関係を築くことに努めている。	紹介先の関係者からの情報も大切に活用しながら家族と話し合い、日頃不安に思っていることや求めていることを把握している。適時必要な説明や助言をふまえ事業所の理解や信頼関係を築くことに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族のお話のなかや主治医とも相談して、現状に適したサービス提供が可能な事業所などの紹介や事業所の特質なども説明し、選択肢を持って考えられるよう努めている。	利用者・家族のお話のなかや主治医とも相談して、現状に適したサービス提供が可能な事業所などの紹介や事業所の特質なども説明し、選択肢を持って考えられるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者一人ひとりを大切に、昔取った杵柄で得意なことを職員と一緒にやっている。一瞬の感情をキャッチし共に共感することで孤独にならないような関係づくりを行っている。	利用者から教えてもらったり、励ましあったりしながら、一緒に生活し、信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のお誕生会や外出、レクなどの行事は積極的に参加を依頼したり、利用者が不安を感じている時は家族にも協力して頂き利用者を支えている。「笑顔毎日だより」を楽しみにしている。	職員だけでなく、家族にも協力して頂くとともに利用者を支えていく関係を築いている。「笑顔毎日だより」に近況を記載することで、日頃の様子を知っていただけるようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を大切にしながら利用者と職員で馴染みのあるスーパーマーケットへ買い出し等に出かけている。他のユニットに職場の同僚だった人やご近所の人がおられ交流を深めている。	今までの生活を大切にしながら利用者と職員で馴染みのあるスーパーマーケットへ買い出し等に出かけている。他のユニットに職場の同僚だった人やご近所の人がおられ交流を深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、リビングで一緒に洗濯ものをたたんだり塗り絵や歌をうたったりして楽しく過ごしている。輪に入らなくても利用者同士の関係がうまくいくようにスタッフ間で調整をしている。	利用者同士が上手く関われるように、職員が間に入りながら利用者それぞれの個性が発揮できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にはお見舞いに行っている。事業所との契約終了後も本人の様子や家族の相談に応えたり、事業所だより等を送付し、他事業所へ転移された際は、情報を提供し同ケアが可能となるよう努めている。	入院された方にはお見舞いに行っている。事業所との契約終了後も本人の様子や家族の相談に応えたり、事業所だより等を送付し、他事業所へ転移された際は、情報を提供し同ケアが可能となるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との生活の関わりの中で会話や表情等から、意向や希望を把握するよう努めている(特に入浴時など)。困難な場合は本人本位の視点で検討するよう努めている。	普段の生活の中から、利用者の希望や思いを話していただけるよう努めている。コミュニケーションの困難な方には、言葉や表情などから思いを汲み取り意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活が継続できるよう家族からセンター方式シートを使用しながらお話を聞いたり、以前利用していた事業所から情報提供して頂くなど、馴染みの生活が継続できるよう努めている。	入所契約時に、家族より生活歴を聞き情報収集し、馴染みの暮らしが継続できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活歴や性格などを把握しながら、個々のできることや分かる力を最大限活かせることができる援助に努め、些細な反応や行動を見逃さないよう職員間で利用者の暮らし全体を把握するようにしている。	日々の暮らしの中で、些細な変化でも職員間で申し送りを行っている。一人ひとりの状態の把握に努め、普段と違った行動や発言などは職員間で共有、検討し個々に応じた対応ができるように努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で「その人にとって今何が必要なのか」の気づきや、お話に出た要望を職員間で話し合い介護計画を作成している。家族にも意向や要望を伺い介護計画に反映している。	日々の気づきや様々な意見を出し合い現状に即した介護計画を作成している。モニタリングを繰り返し、利用者の状態や変化に応じて臨機応変に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動記録は介護計画にそって記録している。ソフトを導入しテーマ毎に記録を検索できチーム間の情報共有に役立っている。個人ファイルには医療や基本情報等を整理しモニタリングにも活用している。	日々の活動記録は介護計画にそって記録している。ソフトを導入しテーマ毎に記録を検索できチーム間の情報共有に役立っている。個人ファイルには医療や基本情報等を整理しモニタリングにも活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの相談内容によっては、グループ内外の事業所と情報共有し、利用者個々に適したサービスが受けられるよう努めている。	心身の変化や緊急時は、主治医・看護師に相談できる体制を確保している。利用者・家族の状況に応じて、病院受診や他介護サービス事業所の紹介も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問や地域の敬老会・お祭りに参加し地域との繋がりを持っている。家族の他、知人や友人の訪問もあり、馴染みの関係が途切れないようにしている。	地域のボランティアに訪問して頂き利用者とは談笑し、楽しい時間を過ごしている。地域の行事に参加して、馴染みの人との出会いをとうして関係が継続している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医に引き続き受診している。日常生活での小さな異変に対し介護職員・看護職員又、利用者個々の主治医・家族と相談し早期発見・早期治療に心がけている。	利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医に引き続き受診している。日常生活での小さな異変に対し介護職員・看護職員又、利用者個々の主治医・家族と相談し早期発見・早期治療に心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々のケアの中で体調変化をその都度、看護職員に伝え双方が連携して、医療と連携を図り、早期発見・早期治療に努めている。	介護職員は、日々のケアの中でいつもと違う体調変化等の気づきをその都度、看護職員に伝え必要時には医療と連携を図り、早期発見・早期治療に心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、利用者の情報を医療機関に提供し、医療機関の地域連携室のソーシャルワーカーと連携し退院計画も含め情報共有をしている。入院中は職員が訪問し、利用者とのよい関係が維持できるようにしている。家族とも情報の交換を行っている。	入院の際は、利用者の情報を医療機関に提供し、医療機関の地域連携室のソーシャルワーカーと連携し退院計画も含め情報共有をしている。入院中は職員が訪問し、利用者とのよい関係が維持できるようにしている。家族とも情報の交換を行っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末ケアの意向を伺い事業所としてできることを説明している。状態に変化がみられた場合は、その都度主治医・家族と話し合い家族の意向を伺いながら、利用者にとって良い方法を検討し医療・近隣各事業所・関係機関と連携している。	契約時に、終末ケアの意向を伺い事業所としてできることを説明している。状態に変化がみられた場合は、その都度主治医・家族と話し合い家族の意向を伺いながら、利用者にとって良い方法を検討し医療・近隣各事業所・関係機関と連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し周知している。高齢者介護の一環として救急法や緊急時対応の知識・技術の向上の為の研修を実施し事例(新聞記事など)を参考に職員でリスクマネジメントを行っている。	緊急時対応マニュアルを作成し周知している。高齢者介護の一環として救急法や緊急時対応の知識・技術の向上の為の研修を実施し事例(新聞記事など)を参考に職員でリスクマネジメントを行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民や運営推進会議委員・消防団・消防署員などの協力を得て事業所内で年2回の防災訓練を実施し、地域防災訓練に積極的参加している。ケアハウスに非常食を備蓄し避難場所にもなっている。	地域住民や運営推進会議委員・消防団・消防署員などの協力を得て事業所内で年2回の防災訓練を実施し、地域防災訓練に積極的参加している。ケアハウスに非常食を備蓄し避難場所にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分らしさを尊重した生活が送れるよう、利用者気持ちを大切に支援している。失禁しても辛い思いをすることがないよう言葉がけを行いさりげなく更衣に誘っている。	利用者を人生の先輩だという気持ちを常に持ち、尊厳をもって支援している。利用者の名前の呼び方は家族と相談し本人が「はい」と返事をする呼び名でいう人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お楽しみ献立や日々の過ごし方等自己決定が出来るよう支援している。誕生日のプレゼントも利用者の欲しい物を用意している。言葉で十分に意思表示が出来ない方には行動をよく観察し思いを察するようにしている。	お楽しみ献立や日々の過ごし方等自己決定ができるよう支援し、誕生日のプレゼントも利用者の欲しい物を用意している。言葉では十分に意思表示が出来ない方には表情や仕草から思いを汲み取り判断している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせた生活が送れるよう支援している。部屋でもリビングでも利用者の心地よい居場所が出来るよう支援している。	一人ひとりの気持ちを最優先にし、無理強いはいはしない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洒落に興味のある人も多く自分で好みの服、色が選べるように支援している。お化粧や着付け教室ではフェスマッサージや浴衣を着たり喜ばれている。お誕生日プレゼントと一緒に服を買いに出かける方もいる。	一人ひとりの櫛を用意しておくで自分で鏡を見ながら髪をとかし身だしなみを整えている。中にはネックレスや指輪、お化粧をして一日が始まる利用者もいる。外出する時は個々にお洒落をして出かけている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お楽しみ献立やおやつバイキングの日は一緒に近くのスーパーに買い物に行ったり、準備をして楽しんでいる。海老アレルギーで長い間食べられなかった人が、再検査すると食べれる事が分かり食生活が豊かになった。	個々の能力に合わせて出来ることを支援している。テーブル拭き、片付けなど。利用者のなかには毎日メニューをボードに書くのを日課にしている方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスのとれた食事を提供している。水分摂取に心がけ好みの飲み物を用意しスプーンの工夫やテーブルの高さにも配慮している。中には敷地内の自動販売機に買いに行く人もいる。	食事量・水分摂取量を記録し利用者個々の状態に合わせて食事の形態を工夫している。薄味にしたり、きざみ食等になっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の嚥下体操や食後の口腔ケアの実施と歯科医・歯科衛生士の助言の元口腔内マッサージや口腔内乾燥防止に努めている。	毎食後、一人ひとりの口腔内の状況に応じたケアを実施している。歯間ブラシ・フロス・舌苔ブラシなどを使用し口腔内清潔の保持に努めている。自立している人も職員が磨き残し等がないか確認している。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄に取り組んでいる。又、プライバシーに配慮した優しい声掛けや誘導にて支援している。	個別の排泄の感覚を把握したり、トイレに行きたい時のサインを見逃さないように気をつけ、そのタイミングに合わせて声かけを行いトイレに案内している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに合わせた必要水分摂取量に心がけ、野菜が多く摂取できる献立づくりをしている。朝・夕の健康体操で自然排便に取り組んでいる。	起床後は牛乳やヤクルトを飲用している。水分を嫌がって飲まない方には好みの飲み物を用意し「おいしい」と思って頂きながら必要十分量の水分摂取に心がけ、便秘予防につなげている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	面会や外出、体調など利用者の希望に合わせて入浴の時間を決めている。また、菖蒲湯やゆず湯などで季節を感じたり、リラックスできるようにしている。	入浴好きな方には毎日でも入れるよう準備している。入浴時間は職員と1対1で密な関係が築ける時間。いろいろな話をして、入浴を楽しくくつろいでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時、利用者や家族から生活習慣を聞き、個々に合った生活が送れるように支援している。また、利用者の状況に合わせて居室やソファで休めるようにしている。	今までの生活習慣を大切に、休みたい時には自分で好きな時に自室に戻り休息できるようにしている。また、夜間良眠できるように日中活動ができるよう努めている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースで管理しリスク回避している。内服薬処方時には、日々のバイタルを提供し主治医との連携を図っている。	個別の薬ケースで管理している。個人ファイルには処方箋を入れ管理し種類・量・副作用についても把握するよう努めている。職員間で申し送りをし、症状の変化があれば、医師と相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、調理等一人ひとりが得意としている事が出来るように場面を設けている。職員は感謝の気持ちを言葉で伝え、役割が周りの方にも役立っていることを伝えている。	洗濯物たたみ、家事、カラオケ等一人ひとりが得意としている事が出来るように場面を設けている。職員は感謝の気持ちを伝え、役割が周りの方にも役立っていることを伝えている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の意向に合わせて、散歩や近くの喫茶店やスーパーに食材を買いに出かけるなど支援をしている。家族と共に外出し馴染みの美容室に行ったり、買い物や外食を楽しんでいる。	利用者の意向に合わせて、散歩や近くの喫茶店やスーパーに買いに出かけるなど支援をしている。家族と共に外出し美容室に行ったり、買い物や外食を楽しみ外泊することもある。車椅子の貸し出しも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (すいせん)	自己評価 (ひまわり)	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解のもと、お小遣い程度のお金を持っている方もおられる。立替金で各自好きな物を購入していただいている。	家族の理解のもと、お小遣い程度のお金を持っている方もおられる。立替金で各自好きな物を購入していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話したり、手紙を出せるように支援している。難聴の方には職員が支援したり、届いた手紙が読みにくい方には利用者の了承のもと代読している。	利用者が電話したり、手紙を出せるように支援している。難聴の方には職員が支援したり、届いた手紙が読みにくい方には利用者の了承のもと代読している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境作りにつとめ、料理のにおいや正月や敬老の日には床の間を作り、鏡餅や生け花等で昔からの行事や季節感を感じてもらっている。壁面にも季節感ができるように心掛け空調や日差しの調整にも気をつけている。	家庭的な環境作りにつとめ、料理のにおいや正月や敬老の日には床の間を作り、鏡餅や生け花等で昔からの行事や季節感を感じてもらっている。壁面にも季節感ができるように心掛け空調や日差しの調整にも気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング横にはソファや和室があり、また、談話コーナーにはテーブル・ソファを設置し好みの場所で自由に過ごすことができるよう支援している。	リビングにはソファを置き、気の合う入同士が会話を楽しみ読書もできる。ゆっくりとくつろいで過ごせるよう畳も用意されている。一人になりたい場合は談話コーナーで静かに過ごすこともできる。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置いたり、家族写真等は利用者が確認しやすい位置に置き安心して生活が送れるよう支援している。又、家族と一緒に外かけて購入した新しい物も大事にしながら過ごせるよう支援している。	馴染みの深い布団や机、好みのぬいぐるみ・家族写真で居室環境を整えている。又、夫のお位牌を大切に置き、朝夕拝んでいる方もおられご自分の居場所づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーと手摺の設置があり自由に行動することができる。居室出入口には馴染みのマスコットなどを飾り、目印としている。	動線の障害物で歩行を妨げないようリスク管理をしドアの開閉がスムーズなのか確認している。又廊下などに水滴を落とさないよう清掃時は転倒予防をしている。	